



2017年12月期決算説明資料

(東証マザーズ 6560)

2018/2

株式会社エル・ティー・エス

1. 事業概要

2. 2017年12月期 決算概要

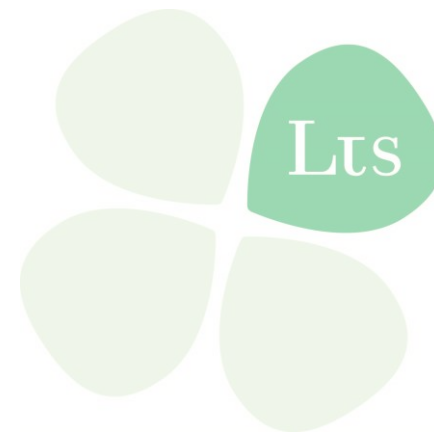
3. 2018年12月期 見通し

4. 今後の成長

5. 参考資料

デジタルシフト × 働き方改革

ロボティクス・AI
ビジネスプロセスマネジメントを
活用することによって
企業変革と働き方改革を
促進支援する会社です

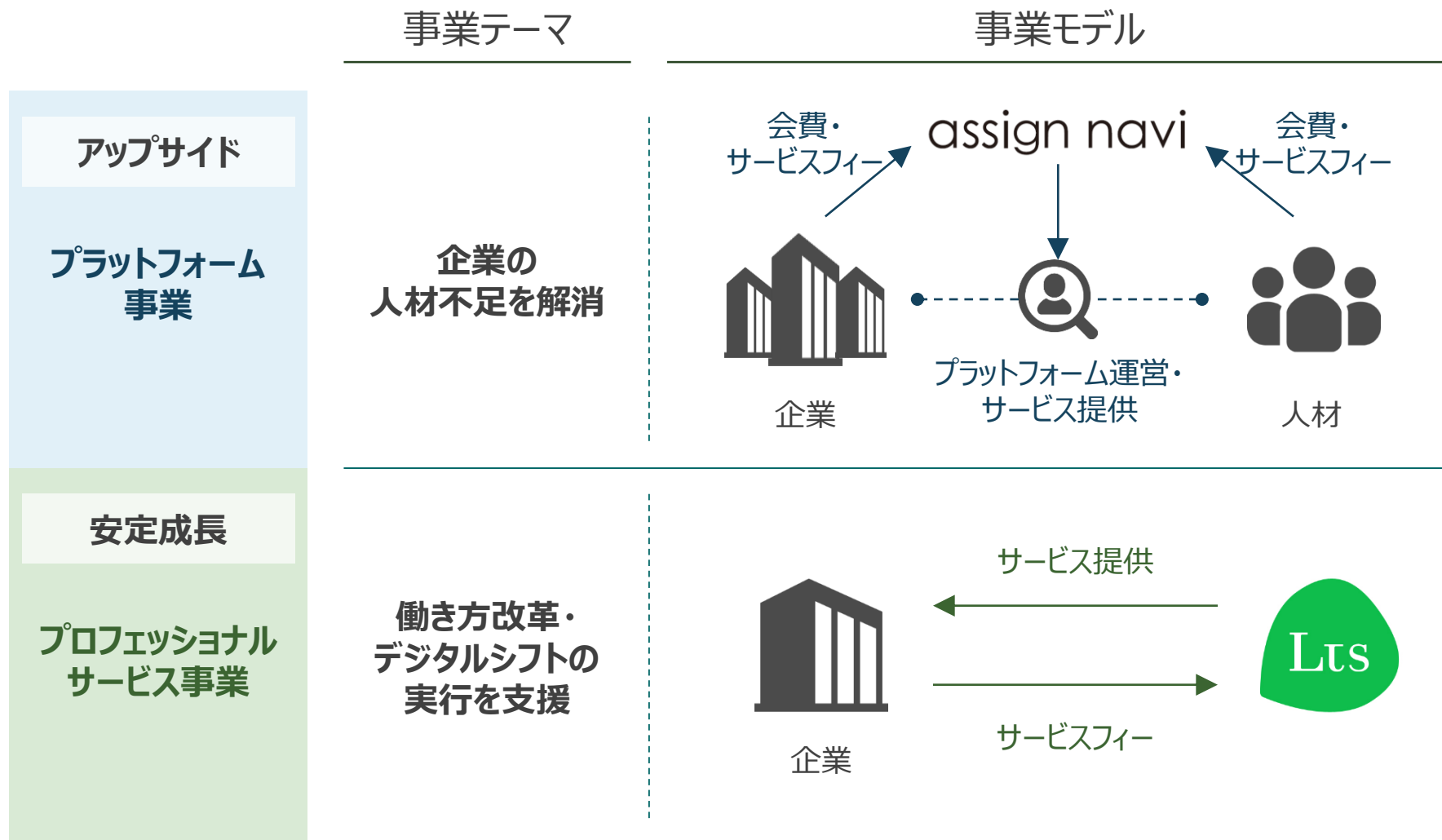


AI (Artificial Intelligence) : 人工知能。人工的にコンピュータなどで人間と同様の知能を実現させようという試み、あるいはそのための一連の基礎技術を指す。

Robotics(RPA) (Robotics Process Automation) : ロボットによる業務自動化の取り組みを表す言葉。主にバックオフィス業務におけるホワイトカラー業務の代行を担う。

BPM (Business Process Management) : 企業内における業務プロセスのマネジメント。業務プロセスを可視化しPDCAサイクルを回すことで継続的に改善する手法。

プロフェッショナルサービス事業を基盤に、プラットフォーム事業を上乗せ展開

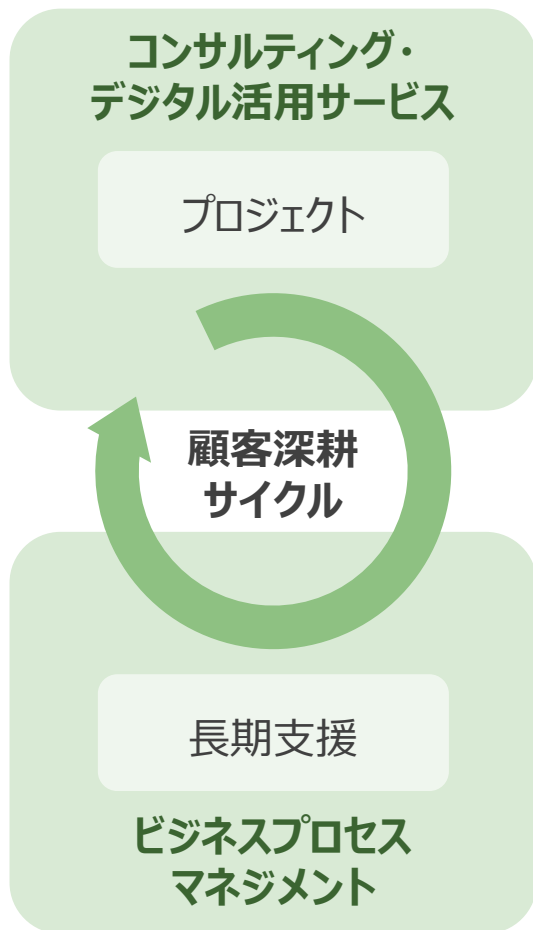


両事業ともに、複数の収益基盤を持つことで安定的な事業成長を実現

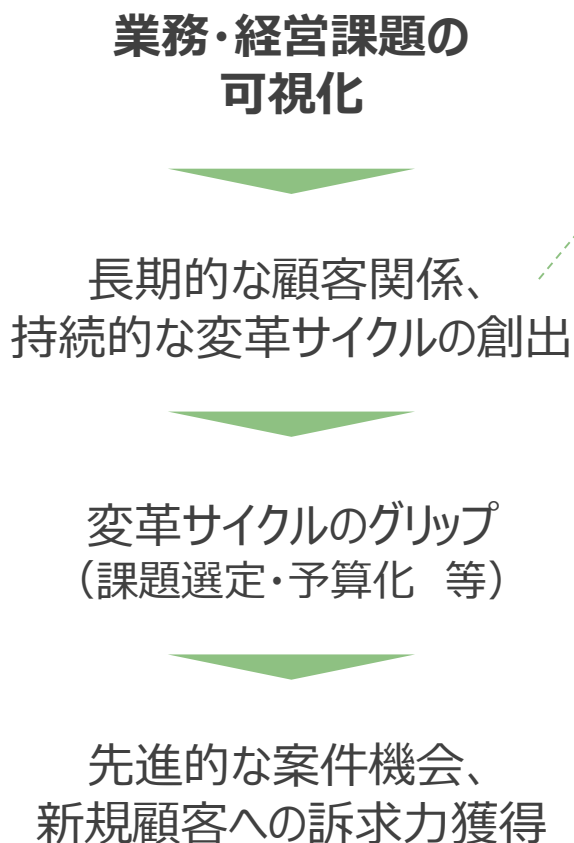
	提供サービス	サービス内容	収益モデル
アップサイド プラットフォーム 事業	教育・研修	プロフェッショナル人材の 育成支援	会費+ サービスフィー型
	採用・転職	プロフェッショナル人材の 採用支援	
	クラウドソーシング	プロフェッショナル人材と 案件のマッチング	会費型
安定成長 プロフェッショナル サービス事業	コンサルティング	企業変革支援	プロジェクト型
	デジタル活用 サービス	ロボティクス・AIの 業務活用	
	ビジネスプロセス マネジメント	経営と業務の 可視化・改善	長期支援型 (ストック収益)

一気通貫の変革支援により顧客を深耕し、先進テーマにおける支援実績を蓄積

事業モデル



独自性・強み



主な顧客企業

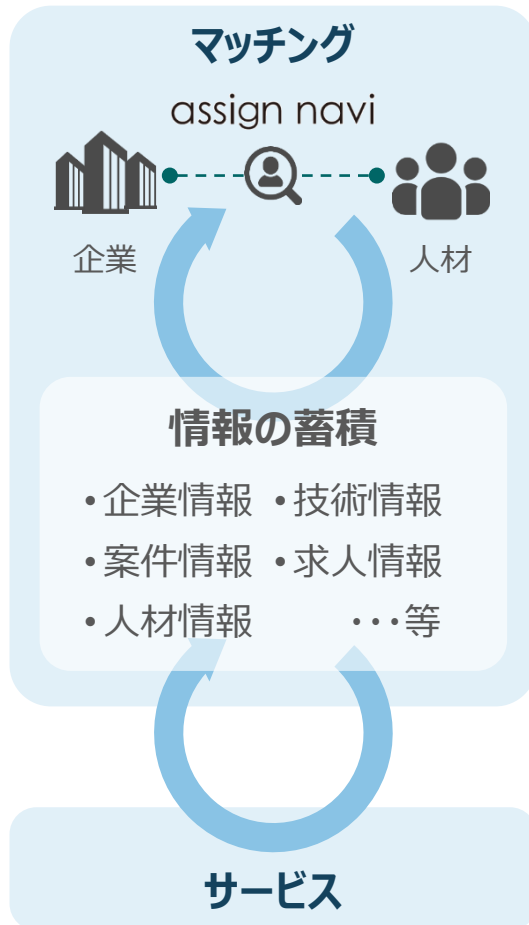
- 伊藤忠商事株式会社
- オリックス株式会社
- 日産自動車株式会社
- 矢崎総業株式会社
- DIC株式会社

主なテーマ

- 働き方改革
- ロボティクス活用
- AI活用
- 競争力強化に向けた各種プロジェクト

大手企業を中心とした会員基盤により、プラットフォームの成長サイクルを実現

事業モデル



独自性・強み

大手IT企業・事業会社を
中心とした会員基盤

案件・プロフェッショナル人材の
獲得、マッチングの充実

会員情報の蓄積、
業界の可視化

会員サービスの
開発・提供

主な利用企業

- PwC Japan
- KPMG Japan
- 株式会社シグママックス
- 三井情報株式会社
- フューチャーアーキテクト株式会社
- 株式会社リクルートテクノロジーズ

主なサービス

- AIを活用したマッチング
- エンタープライズ版
(プライベート環境での外注先管理)
- 教育・研修
- 採用・転職
- トレンドレポート

1. 事業概要

2. 2017年12月期 決算概要

3. 2018年12月期 見通し

4. 今後の成長

5. 参考資料

過去最高の 売上高および営業利益を達成

プロフェッショナル
サービス事業

デジタル活用サービスの伸長

プラットフォーム事業

投資完了による黒字化

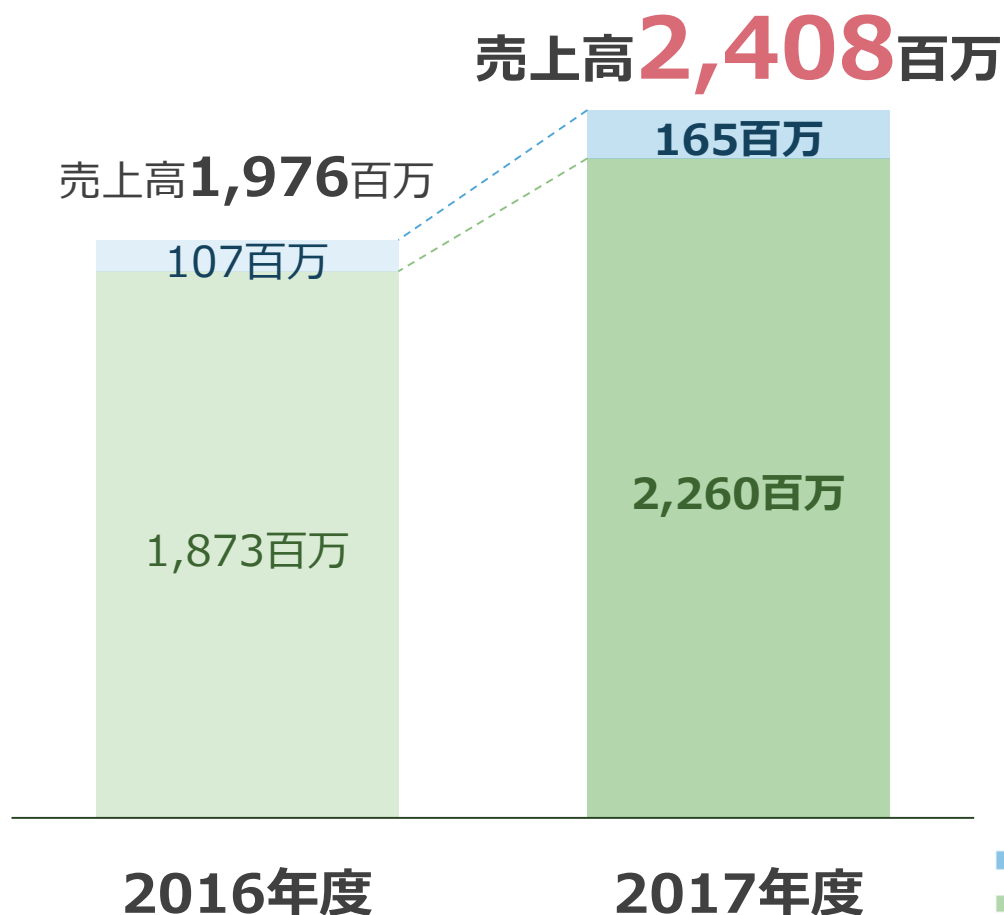
2017年の連結決算ハイライト①

LTS

損益計算書 (単位：百万円)	2016年度	2017年度	前年差	前年比
売上高	1,976	2,408	431	21.9%
営業利益	12	184	171	1,389.3%
営業利益率	0.6%	7.7%	7.1points	-
経常利益	11	174	163	1,482.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△143	119	263	-

※以降、すべての数値は100万円単位で切り捨て。

売上高は堅調に拡大

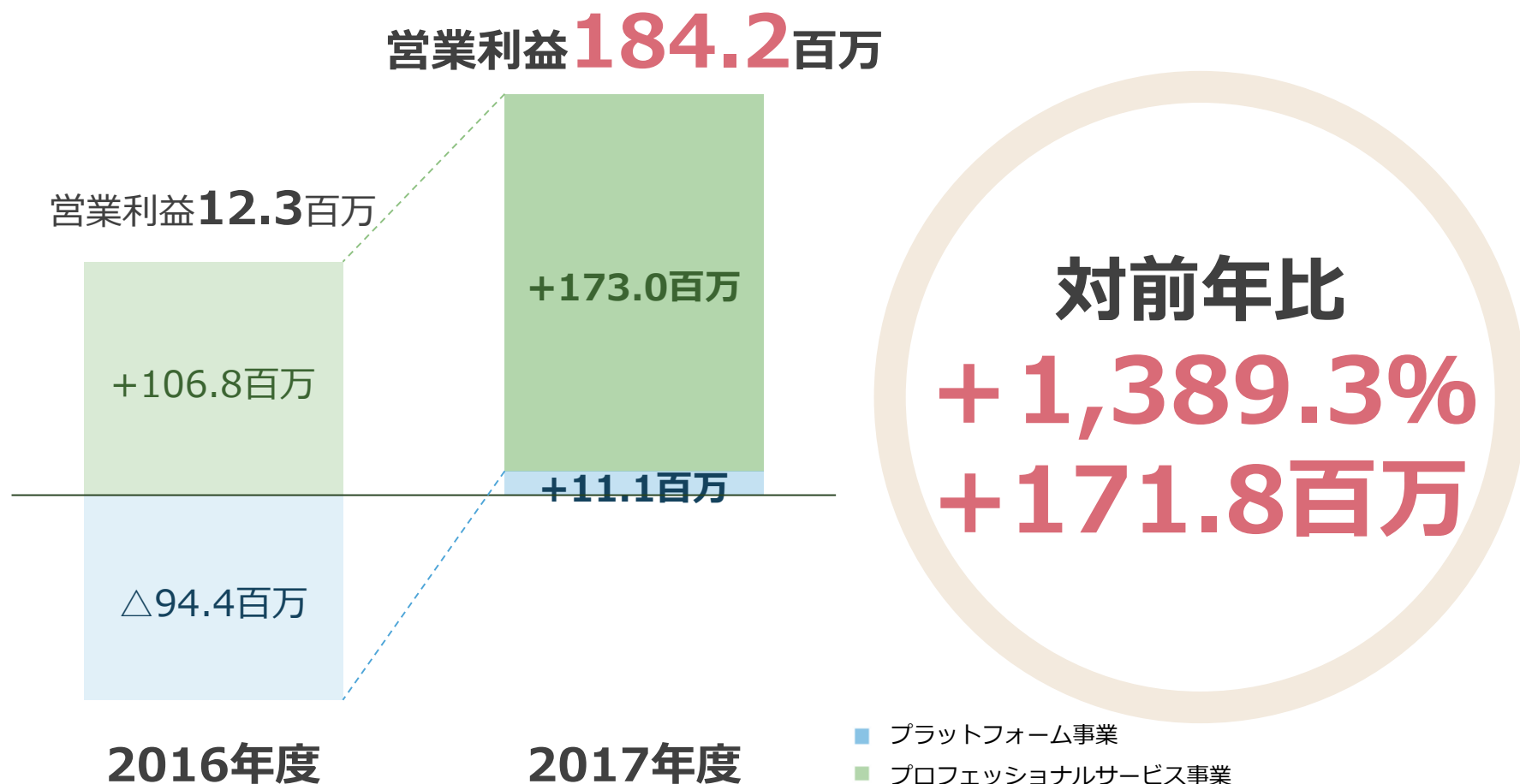


対前年比
+21.9%
+431百万

- プラットフォーム事業
- プロフェッショナルサービス事業

※プラットフォーム事業の売上高にはセグメント間の内部売上高を含む。

営業利益は大幅拡大



デジタル活用サービス拡大

(売上前年比：78%増)

プロフェッショナル人材増加 (前年比：15%増)

取引社数増加 (前年比：23%増)

(単位：百万円)	2016年度	2017年度		
			前年差	前年比
売上高	1,873	2,260	+386	20.6%
営業利益	106	173	+66	62.0%

2017年の実績_プロフェッショナルサービス事業②

LTS

働き方改革・デジタルシフト(RPA等)関連セミナーを多数開催

第12回 BPMフォーラム2017

プロセス変革が“働き方改革”を実現する
～RPA、AIと融合するBPMの潜在力～

PMI日本フォーラム2017

ITpro EXPO 2017



■ ユーザー企業におけるビジネスアナリストの育成とキャリア

PMI日本フォーラム2017

■ 業務計測と労務管理を連動させて生産性を向上する「働き方改革」セミナー

チームスピリット様共同開催

■ 本場のビジネスプロセス・マネジメントによるビジネスイノベーション

IIBA日本支部カンファレンス2017

■ プロジェクト失敗の原因を紐解く！成功に導くための「業務分析セミナー」

主催:アサインナビ

■ 執行役員 山本政樹が講師を担当するBBT Ch「ビジネスプロセスマネジメント」

放送開始

■ 現場が動く改善活動

第12回 BPMフォーラム2017

■ 失敗しないRPA導入 ～ロボットを前提に、業務を変えてガバナンスを効かせる～

第2回AI&ロボティクスシンポジウム

■ 失敗しないRPA導入

ITpro EXPO 2017

RPAサービスページ公開



業務自動化 ノウハウ・実績をPR

投資完了、黒字化

会員数拡大

(法人会員数：2,635社、個人会員数：2,773名)

会員向けサービス拡充 (イベント・研修・採用 等)

(単位：百万円)	2016年度	2017年度	前年差	前年比
売上高	107	165	+58	54.4%
営業利益	△94	11	+105	-

会員向けイベント・研修を年93回開催

- 経営者向けウィンターサミット2017／サマーサミット2017（年2回開催）
- ITプロジェクト失敗の原因とは？成功に導く「業務分析(ビジネスアナリシス) セミナー」
- <face to faceで出会う！> ITビジネス交流会開催
- <SES営業未経験者/初心者/エンジニア向け> SES営業研修「業界・契約を知る」
- フリーランスコンサルタント/エンジニアを御社の真のパートナーにする方法とはセミナー
- デジタルマーケティング領域におけるデータサイエンス活用法セミナー
～デジタルマーケティング×データサイエンティスト
- <コスト100万削減実績あり！> 保険でできる決算対策相談会
- 社員のメンタルヘルスケア勉強会～社員が元気な会社をつくるには！セミナー
- 「国内最多！ピークを迎えるITソフトウェア業界のM&A事情」セミナー
- <コンサルタントはどのように文章を書くのか？> 相手を動かす文章術
- <IT/コンサル業界の営業担当・技術者にお勧め> ロジカルシンキング研修（初級）

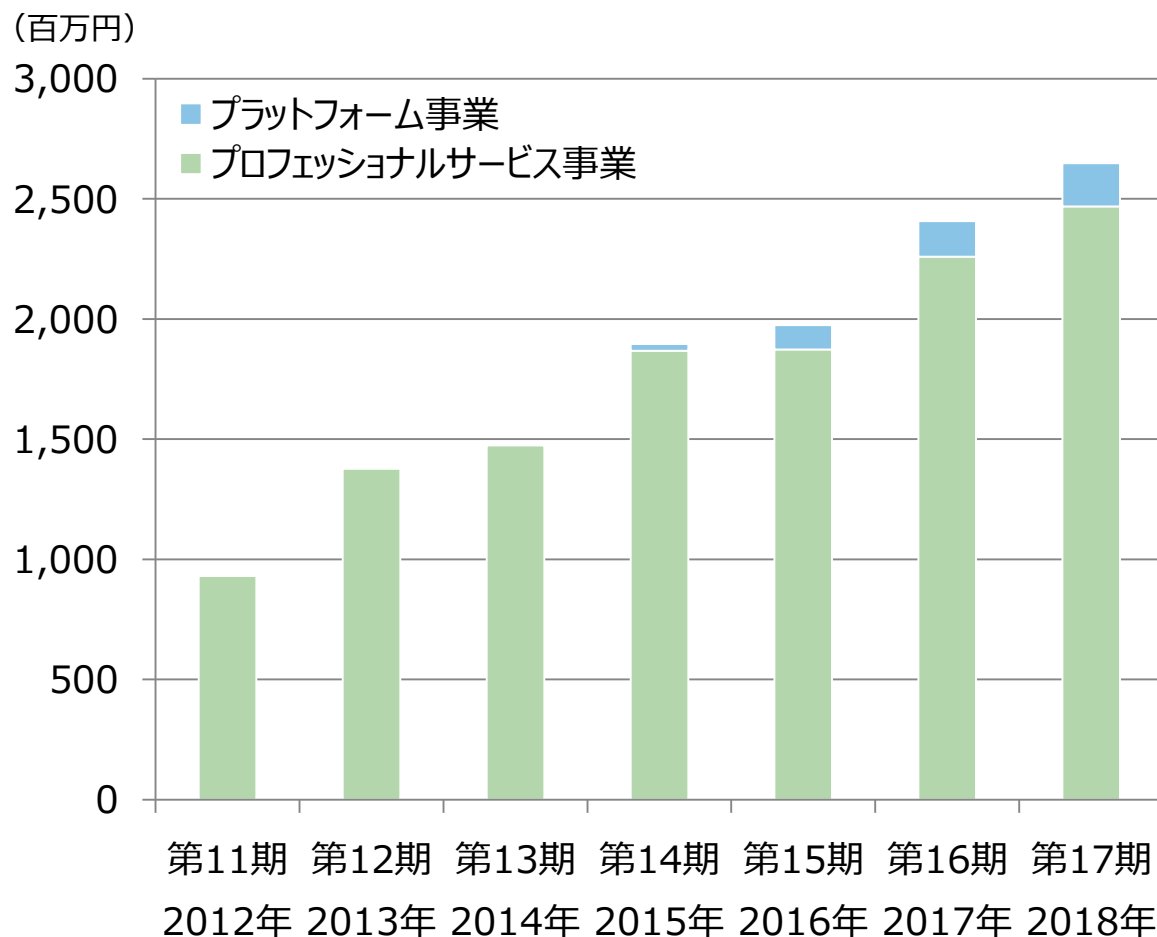


1. 事業概要
2. 2017年12月期 決算概要
3. 2018年12月期 見通し
4. 今後の成長
5. 参考資料

増収増益見込み (売上9.3%増、営業利益25.1%増)

(単位：百万円)	2017年度 実績	2018年度 見通し		
			前年差	前年比
売上高	2,408	2,630	222	9.3%
営業利益	184	230	46	25.1%
営業利益率	7.7%	8.8%	1.1points	-
経常利益	174	228	54	31.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	119	153	34	28.5%

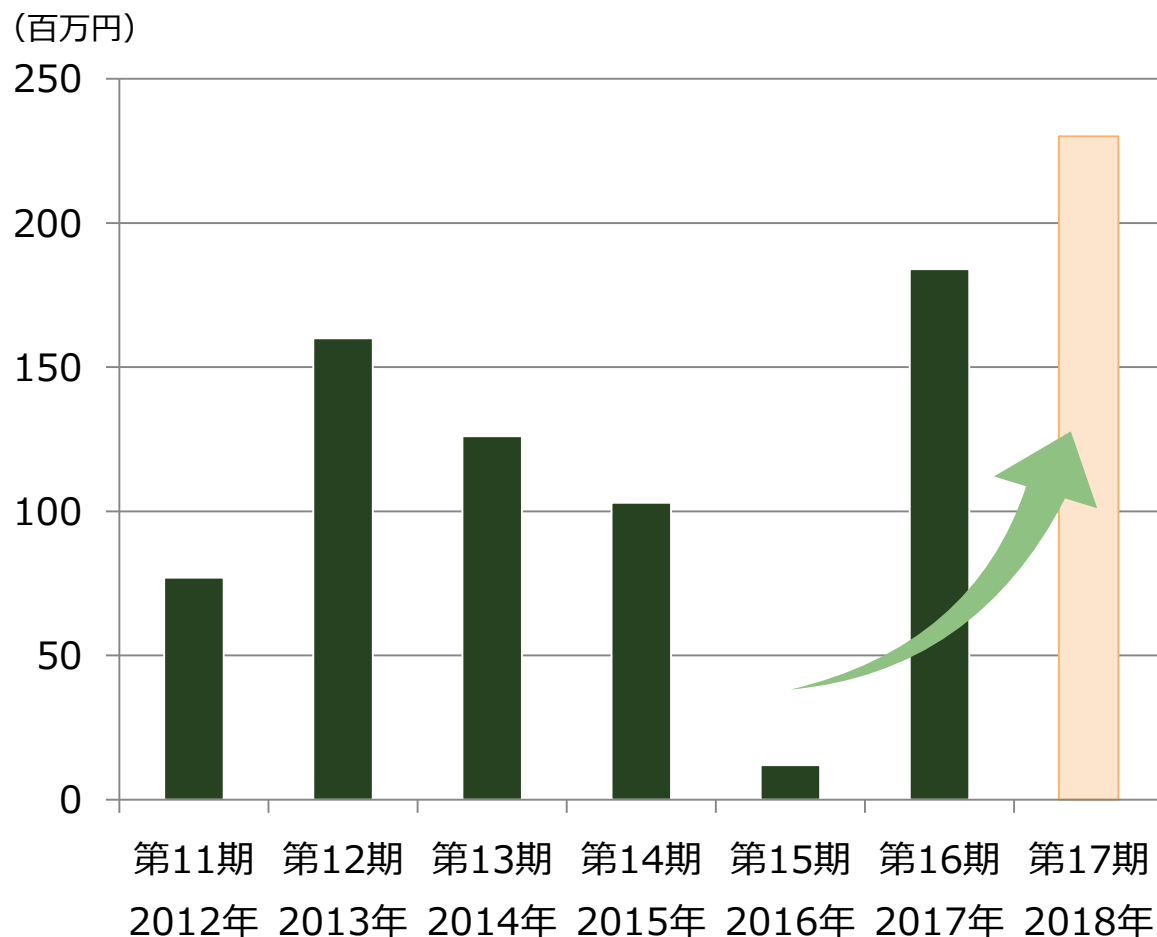
7年連続の増収見込み



年平均成長率
+ 18.9%
(2012~18年度)

※第11期(2012年度)から第13期(2014年度)までは単体数値、第14期(2015年度)以降は連結数値。

最高益の更新見込み



年平均成長率
+ 19.9%
(2012~18年度)

※第11期(2012年度)から第13期(2014年度)までは
単体数値、第14期(2015年度)以降は連結数値。

2018年のセグメント別見通し

LTS

プロフェッショナルサービス事業：顧客深耕モデルを推進し、
大幅な増収増益となる見通し

(単位：百万円)	2017年度 実績	2018年度 見通し		
			前年差	前年比
売上高	2,260	2,469	+209	9.3%
営業利益	173	217	+44	25.6%

プラットフォーム事業：会員数拡大、会員向けサービスの
充実に注力（**来期以降収益拡大**）

(単位：百万円)	2017年度 実績	2018年度 見通し		
			前年差	前年比
売上高	165	180	+15	9.1%
営業利益	11	13	+1	17.9%

1

主要顧客企業との 関係強化

- 主要顧客の社数・取引額の増加
- デジタルシフト領域など先進的な案件機会を獲得

2

デジタル活用 サービスの拡大

- RPA・AIに関連するサービス提供力の強化
- 急拡大する市場ニーズの確実な取り込み・新規開拓

3

戦略的 事業連携の推進

- デジタルシフト領域で複数企業と提携
- グローバル対応力の強化

1

登録会員の拡大

- システム/UI改善
- エンタープライズ版^{注1}、退職者連携サービス^{注2}強化

2

イベントの拡充

- データサイエンティスト養成
- RPA導入研究
- ビジネスアナリスト養成
- UI/UX研究

3

会員企業の 人材育成支援

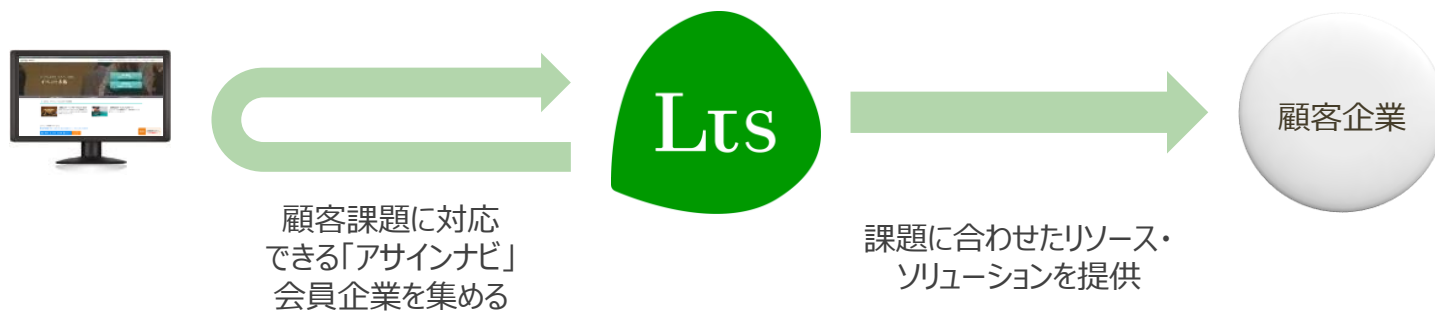
- 企業研修コンテンツの拡充
(IT/Non-IT関連)
- 企業研修講師
ネットワークの構築

注1) エンタープライズ版：特定の企業とその企業に招待された協力会社のみがアクセスすることのできる専用コミュニティ環境を提供するサービス

注2) SI・コンサルティング会社と、それらの会社を退職して起業したりフリーランスとなって同業界で活躍するOB/OGとの連携を可能にするサービス

「アサインナビ」会員企業のリソースをプロフェッショナルサービスに活用

プロフェッショナルサービスを提供する際に、「アサインナビ」会員企業のリソースを活用することで、より多くの顧客課題の解決に取り組み、企業変革を実現。



データサイエンティストの研修プログラムを「アサインナビ」会員向けに提供

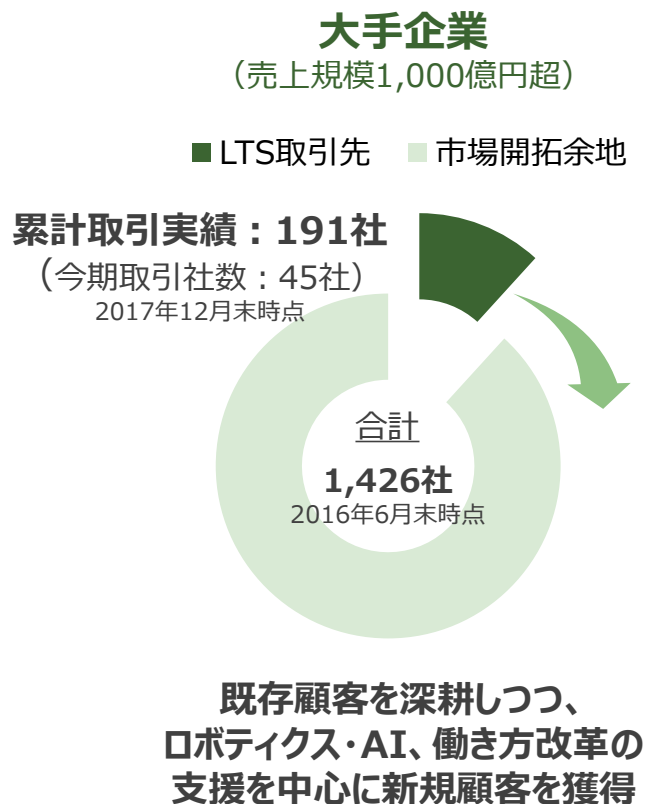
顧客のデジタルテクノロジー活用に必須であるものの、労働市場全体で絶対数が不足しているデータサイエンティストの研修プログラムを「アサインナビ」会員企業に提供し、人材不足を改善。



1. 事業概要
2. 2017年12月期 決算概要
3. 2018年12月期 見通し
4. 今後の成長
5. 参考資料

大手企業における支援実績をフックに、残る市場開拓余地にアプローチ

顧客基盤の拡大戦略



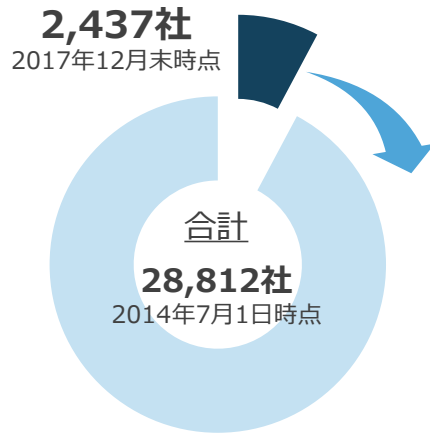
(出典) リスクモンスター 『都道府県別・売上高別企業数』
(http://www.riskmonster.co.jp/anamon/pdf/area_sales201606.pdf)

大手IT企業会員をフックにプロフェッショナル人材・テクノロジーを獲得し、会員基盤を拡大

会員基盤の拡大戦略

IT・テクノロジー 企業会員

■ アサインナビシェア ■ 市場開拓余地

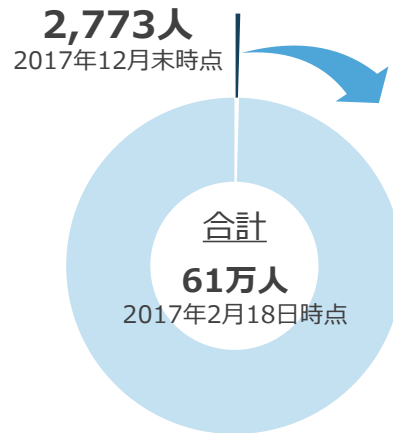


エンタープライズ版の提供による
大手IT企業の利用促進・
成長企業の獲得

(出典) 総務省
『平成26年経済センサス-基礎調査
確報集計 企業等に関する集計』

プロフェッショナル会員 (フリーランス人材)

■ アサインナビシェア ■ 市場開拓余地

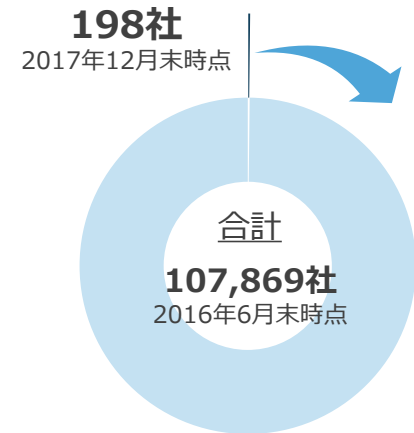


大手企業案件・
退職者連携サービスをフックに
プロフェッショナル人材を獲得

(出典) ランサーズ株式会社
『副業者の人口・職種・年収・労働時間が丸裸 |
フリーランス実態調査2017』: “自由業系フリーワーカー”
(<http://www.lancers.jp/magazine/29878>)

事業会社会員 (売上規模10億円超)

■ アサインナビシェア ■ 市場開拓余地

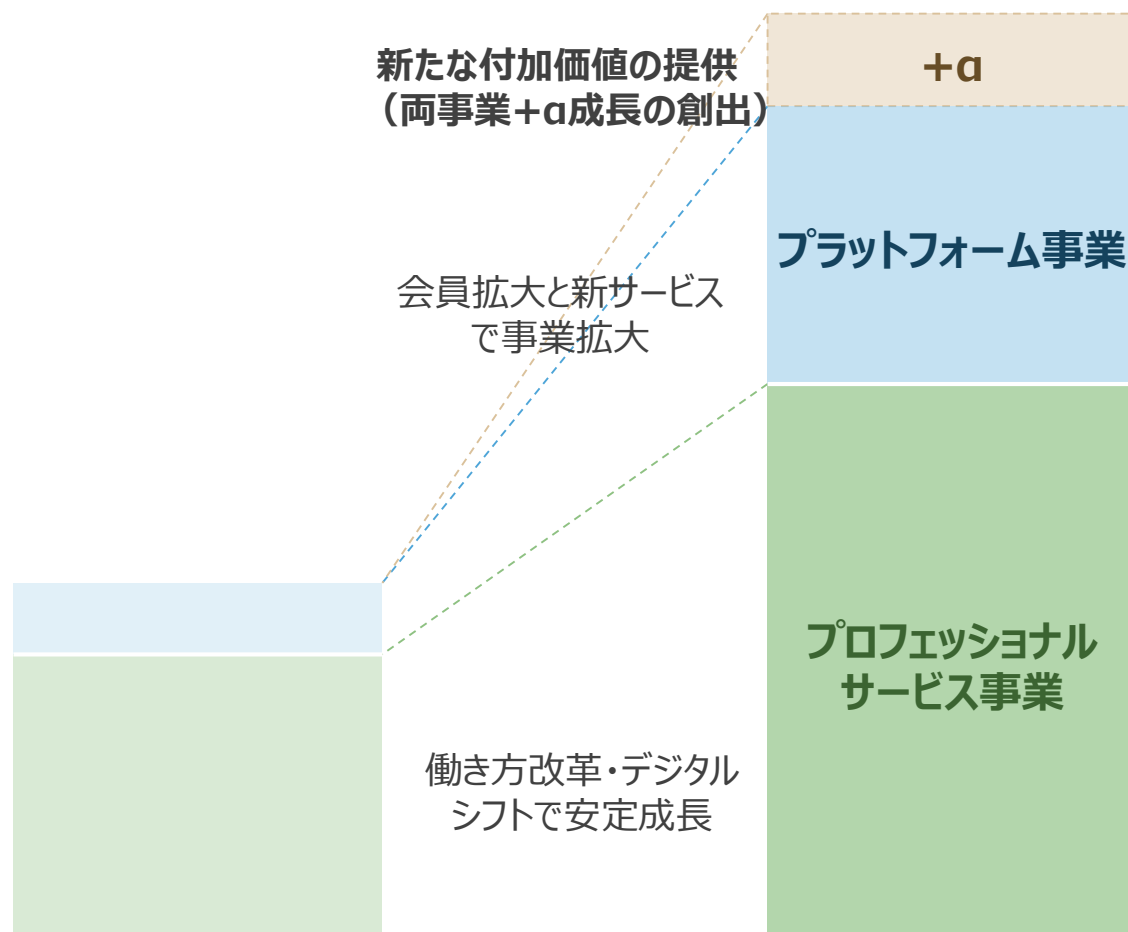


プロフェッショナル人材・
先端テクノロジーをフックに
事業会社を獲得

(出典) リスクモンスター 『都道府県別・売上高別企業数』
(http://www.riskmonster.co.jp/anamon/pdf/area_sales201606.pdf)

プラットフォーム事業における会員基盤の拡大を核に、両事業の+α成長を創出

成長ビジョン

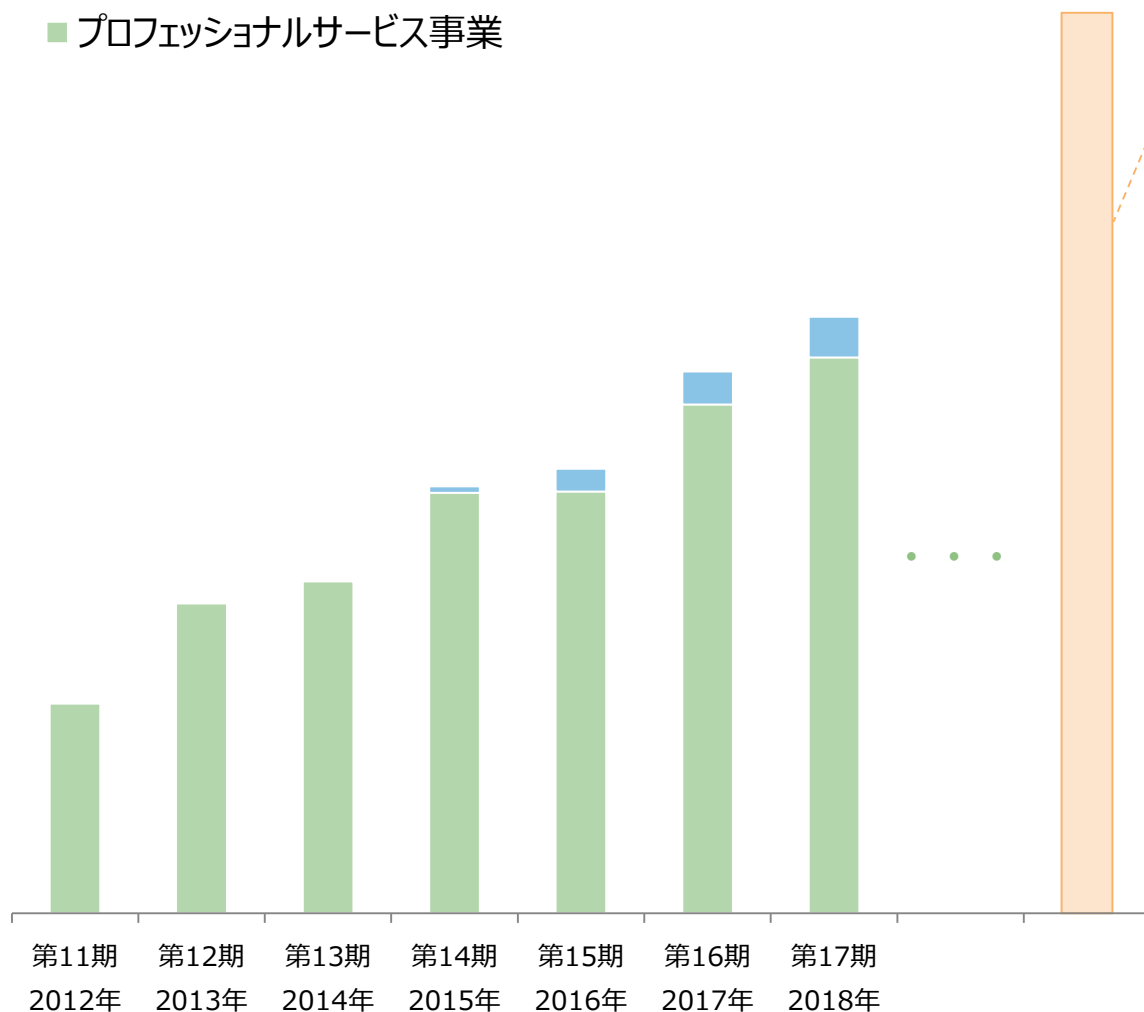


+α成長の創出イメージ



当面の成長ターゲット

- プラットフォーム事業
- プロフェッショナルサービス事業



連結目標

- 売上高
24億円 ➡ **40億円**
- 営業利益
1.84億円 ➡ **5億円**

- 法人会員
2,635社 ➡ **5,000社**
- 個人会員
2,773名 ➡ **5,000名**

- プロフェッショナル人材
130名 ➡ **200名**
- 主要顧客
➡ **倍増**

1. 事業概要
2. 2017年12月期 決算概要
3. 2018年12月期 見通し
4. 今後の成長戦略
5. 参考資料

株式会社エル・ティー・エス

代表	: 代表取締役社長 樺島 弘明
設立	: 2002年3月
資本金	: 440,710,600円 (2017年12月31日時点)
所在地	: 東京都新宿区新宿2-8-6 KDX新宿286ビル 3階
従業員数	: 152名 (2017年12月31日時点)
事業内容	: プロフェッショナルサービス事業 プラットフォーム事業
子会社	: 株式会社アサインナビ (2017年12月31日時点) LTS ASIA CO., LIMITED (所在地: 香港)
加入団体	: 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS) (2017年12月31日時点) 一般社団法人 企業情報化協会 (IT協会) 一般社団法人 情報サービス産業協会 (JISA) 一般社団法人 日本ビジネスプロセス・マネジメント協会 一般社団法人 PMI日本支部 (PMI Japan Chapter) オープン・グループ (The Open Group) IAOP (International Association of Outsourcing Professionals) ジャパンSAPユーザーグループ (JSUG)

参考) LTSの役員

LTS

代表取締役社長

樺島 弘明

Hiroaki Kabashima

慶応義塾大学 卒

1998年 アイエヌジー生命保険株式会社
(現 エヌエヌ生命保険株式会社) 入社
2000年 株式会社IQ3 入社
2001年 株式会社ラーニング・テクノロジー・
コンサルティング 入社
2002年 当社設立 取締役
2002年 当社 代表取締役社長
2008年 キープライド株式会社
(現 株式会社アサインナビ) 取締役

取締役副社長

李 成一

Sungil Lee

東京大学 卒

1998年 アンダーセンコンサルティング株式会社
(現 アクセンチュア株式会社) 入社
2000年 株式会社IQ3 入社
2001年 株式会社ラーニング・テクノロジー・
コンサルティング 入社
2002年 当社設立 取締役
2005年 当社 取締役副社長

取締役

吉田 悦章

Yoshiaki Yoshida

早稲田大学 卒

1992年 アンダーセンコンサルティング株式会社
(現 アクセンチュア株式会社) 入社
1995年 フィアットオートジャパン株式会社 入社
1998年 朝日アーサーアンダーセン株式会社
(現 PwCコンサルティング合同会社) 入社
2003年 当社 入社
2005年 当社 取締役
2008年 キープライド株式会社
(現 株式会社アサインナビ) 代表取締役社長

取締役

高麗 貴志

Takashi Koma

慶応義塾大学 卒

1999年 監査法人トーマツ
(現 有限責任監査法人トーマツ) 入所
2006年 当社 入社
2007年 当社 執行役員
2007年 当社 取締役
2014年 キープライド株式会社
(現 株式会社アサインナビ) 監査役

※監査役の経歴については、以下の基準に基づく略歴を記載。

1. 在籍期間3年以上（グループ企業内の出向・転籍を除く）入社歴
2. グループ企業を含む在籍期間中の最高役職歴

常勤監査役

小寺 久隆

Hisataka Odera

1980年 アーサーアンダーセンアンドカンパニー
(現 アクセンチュア株式会社) 入社
1991年 株式会社日本総合研究所 入社
1997年 日本アイ・ビー・エム株式会社 入社
2015年 当社 監査役

社外監査役

粟田 敏夫

Toshio Awata

1972年 三井物産株式会社 入社
2007年 三井物産株式会社 常務執行役員 中部支社長
2015年 当社 監査役

社外監査役

高橋 直樹

Naoki Takahashi

1985年 日産自動車株式会社 入社
1993年 米国ニューヨーク州弁護士資格取得
1995年 ホワイต์&ケース法律事務所 東京オフィス 入社
2001年 アメリカンインターナショナルグループ株式会社 入社
2009年 AIGジャパン・ホールディングス株式会社
取締役 常務執行役員
2016年 当社 監査役

参考) 2017年の連結決算実績①

損益計算書 (単位：百万円)	2016年度	2017年度		
			前年差	前年比
売上高	1,976	2,408	431	21.9%
売上総利益	776	1,009	233	30.0%
売上総利益率	39.3%	41.9%	2.6points	-
販売管理費	764	825	61	8.0%
営業利益	12	184	171	1,389.3%
営業利益率	0.6%	7.7%	7.1points	-
経常利益	11	174	163	1,482.9%
特別利益	-	-	-	-
特別損失	64	-	△64	-
税金等調整前 当期純利益	△53	174	227	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△143	119	263	-

参考) 2017年の連結決算実績②

貸借対照表 (単位：百万円)	2016年度	2017年度		
			前年差	前年比
流動資産	841	1,622	781	92.9%
(現預金)	429	1,147	718	167.3%
固定資産	94	83	△10	△11.1%
総資産	935	1,706	771	82.4%
流動負債	322	605	282	87.6%
(未払法人税等)	2	62	59	2,115.3%
固定資産	101	51	△49	△49.0%
純資産	511	1,049	537	105.2%

参考) 2017年の連結決算実績③

キャッシュフロー (単位：百万円)	2016年度	2017年度	2017年度 主な内訳	
営業 キャッシュフロー	△147	375	- 税金等調整前当期純利益 - 売上債権の増減額 - 仕入債務の増減額 - 未払金の増減額	+174 △ 52 + 53 +140
投資 キャッシュフロー	61	△ 7	・ -	
財務 キャッシュフロー	△79	350	- 株式の発行による収入 - 自己株式の処分による収入	+288 +130
現金および 現金同等物の 増減額	△166	718	・ -	
現金および 現金同等物の 残高	329	1,047	・ -	

● 免責事項

- 本資料は皆様の参考に資するため、株式会社エル・ティー・エス（以下、当社）の財務情報、経営指標等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。
- 本資料に記載された内容は、現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

● 将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

